

## 序にかえて

最近の地球的環境問題に関する世界的な議論の高まりには目を見張るものがあります。

先の先進国首脳会議でも主要議題として取り上げられ、また従来は環境問題に関する議論はほとんどされなかった経済関係の国際会議でも、主要なテーマとして取り上げられております。

わが国においても政府はもとより、国民各層や企業等の関心が急激に高まり、新聞やテレビでは地球的規模の環境問題が報道されない日はないと言っても過言ではありません。

この環境問題はオゾン層の破壊、地球温暖化、酸性雨、有害化学物質、海域や湖沼の汚染等が代表的なものでありますが、この陰にかくれて目立たないものの、都市河川の氾濫、地下水位の低下、湧水の枯渇化や塩水化現象、地盤沈下及びヒートアイランド化等が各地で問題となっております。この現象は大都市のみならず中小都市でもひんぱんに発生しておりますが、特に大都市では深刻な状況を呈しております。

この原因として森林の荒廃や、大規模開発、河川水路のコンクリート化等があげられますが、最大のもは都市がアスファルトやコンクリートによって覆われ、雨水が地下に浸透しなくなったことと、地下水の過剰な汲み上げであります。

このため最近では、これらの問題に対して各種の対応策が提示されておりますが、代表例としては雨水浸透工法と雨水貯留工法があげられます。雨水貯留工法は雨水を各所に貯留し、雑用水や散水に資源として利用するものであります。一方、雨水浸透工法は雨水を地下に浸透させるもので、

地下水涵養，地盤沈下防止，洪水抑制，湧水の復活及びヒートアイランド化の防止等がその効果としてあげられます。

この雨水浸透の試みは全国的にかなり広まりつつありますが，オリジナル作品が多く，まだ試行やテストの段階にあるものも少なくありません。しかし，先達の努力や，この工法の理解者に支えられ，徐々にではあります実績も増え，世の中に認知されつつあります。さらに雨水浸透の製品開発に参画するメーカーも増え，その技術力は以前と比較にならないような力量となっております。したがって，雨水浸透は今後，社会的情勢や世間のニーズからも，その普及が期待されております。

しかし最近の状況の中で，今迄は雨水の浸透量拡大を重点に技術開発が進められてきましたが，ここに来て「水質」の問題がクローズアップされ，地下水汚染との関連が大きな課題となっております。この水質の問題を放置するならば，雨水浸透の普及は足踏みの状態となることも考えられます。

ここでは，筆者のささやかな実践を紹介しながら，雨水浸透の必要性及び現状と課題について述べました。各地での水環境，特に雨水の地下浸透への取組みに少しでも役立つことができれば幸いです。

終りに，本書の出版に当たり大変御苦勞をおかけしたセメントジャーナル社の関係各位，並びに貴重な資料を提供下さった関係者の皆様方に心よりお礼申し上げます。

1991年9月

渡辺 佐一郎